

正蓮寺川公園アートプロジェクト構想 Ver.1.0

konohana permanentele 100+ の推進に向けて

2024年1月

此花区役所・konohana permanentele 100+コアメンバー会議

目 次

策定に当たって	2
1 正蓮寺川公園のあゆみ	3
2 正蓮寺川公園に係る状況と未来への期待	4
(1) 此花区で万博開催	
(2) 正蓮寺川公園は稀に見る空間	
(3) アートの土壌あり	
(4) 区制100年	
3 めざす姿	5
(1) 「未来への期待」からの検討	
(2) プロジェクト名・テーマ・コンセプト	
(3) めざす姿の具体像	
4 めざす姿の具体像の実現に向けての流れ	9

5 めざす姿の具体像の実現に向けてのステップ	10
(1) 公園全体にわたって100以上のパブリックアートが展示され、更新されつづけている	
(2) 大阪・関西有数の「パワースポット」として人々に広く認知され、多くの人々が集い賑わっている	
(3) まちの人々が誇りと愛着を持ち、まちの人々の活動が活発に行われている	
(4) プロジェクトの良き効果が広範囲に及んでいる	
6 市民との協働による推進体制のイメージ	15
7 財源のあらまし	16
8 コアメンバー有志によるあとがき	17

策定に当たって — いのち輝く未来に向けて —

いのちの輝き。

なんと心ときめく言葉だろう。

人はすべからくいのちの持ち主であり、いのちを輝かすために生きている。

「いのちの輝き」とは人の存在理由そのもの。ゆえに、人はその言葉に心ときめく。

さて、大阪の此花区に正蓮寺川という、かつて美しく、魚が泳ぎ、子どもたちが日々声を上げて笑い、目を輝かせ、いきいきと遊ぶ川があった。その正蓮寺川は、高度経済成長期を経て、水質が汚濁し、悪臭が酷くなり、いのちを脅かす「公害」を象徴するが如き川となり果てた。

時を経て、これを憂いた多数の人々が立ち上がり、良き環境の再生に真剣に取り組んだ。人々の長年の努力は紆余曲折を経ながら少しずつ形となり、輝きを失った正蓮寺川をいのちを育む美しい正蓮寺川公園として再生・整備する事業が始まり、2017年に第1期工事が完成した。

正蓮寺川公園は、人々が公害を克服し、良き環境を、ひいては人々の「いのちの輝き」を取り戻す営みの象徴と言うに相応しい場所なのである。

第1期工事完成の翌年の2018年には、正蓮寺川公園と同じ此花区内で、2025年大阪・関西万博が開催されることが決まった。そして、この万博のテーマには、「いのちの輝き」が織り込まれていたのであった。

同じ此花区で、わずか数kmの距離を隔て、「いのちの輝き」を志向する正蓮寺川公園と万博。正蓮寺川公園は、大阪・関西万博のテーマに共鳴し、「いのちの輝き」をより強く、広く発信し、未来に伝えるのに最もふさわしい場所のひとつとなったのである。

そこで私たちは、アートに着目した。アートは、アーティストたちのいのちの結実であり、「いのちの輝き」を表現する良きアートには、永きにわたり、多くの人々のいのちに響き、それを輝かせる力があるからである。

その後、私たちは種々の検討を重ね、パブリックアートを正蓮寺川公園において未来にわたって脈々とつくり続けていくことをもって、「いのちの輝き」が脈々とつながっていく未来を多くの人々に発信し、かつ共有し、良き未来の実現に寄与するプロジェクトを実行することとした。

このようにして、このアートプロジェクトのテーマは「いのちの輝き脈々と、未来へ」となった。

以上をふまえ、このテーマに沿って当アートプロジェクトを進めていくための方針をここに示す。

第一に、各アート作品のテーマを「いのちの輝き」とすることである。言うまでもなく、「いのちの輝き脈々と、未来へ」というプロジェクトテーマに沿うためである。

第二に、多様性の尊重である。いのちの姿はひとりひとり違った姿をしている。そうであるなら、多様なアーティストによる多様な作品を設けていくのが「いのちの輝き」を際立たせるからである。

第三に、持続可能性の尊重である。私たちは今、地球の持続可能性を真剣に追い求めている。それは、人が永遠に命を輝かせ続ける未来をつくるためである。持続可能性の尊重は、「いのちの輝き」に必須の条件なのである。

私たちは、「『konohana permanentale 100 (仮称)』有識者会議」及び「konohana permanentale 100+コアメンバー会議」での検討をふまえ、以上のテーマと方針を具体化するものとして、正蓮寺川公園アートプロジェクト構想をここに策定するものである。

1 正蓮寺川公園のあゆみ

正蓮寺川公園は大阪市の都市公園で、主として都市の自然的環境の保全並びに改善、都市景観の向上を図るために設けている緑地である。現在、千鳥橋東側から森巣橋までの区間の整備が完了しており、最終的には全長約2.5km、面積約18.3haの広大な公園となる予定である。

かつては、浸水被害が発生し、水質汚濁の酷い川であり、今から約60年前に地元住民による埋め立て要望が行われた。その後も、長期に渡り地元住民により署名活動や陳情、要望等の活動が続けられたことで、正蓮寺川を埋め立て、公園を整備することが決定され、現在へと続いている。このように正蓮寺川公園は、「住民の願いによる環境問題克服の歴史」を持つ公園である。



2 正蓮寺川公園に係る状況と未来への期待

(1) 此花区で万博開催

・状況

良き環境ひいては「いのちの輝き」を取り戻す営みの象徴ともいえる正蓮寺川公園のある此花区で、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする2025年大阪・関西万博が開催される。

・未来への期待

万博のテーマとも相通じる「いのちの輝き」というテーマを、正蓮寺川公園から強く、広く、永く発信することが期待される。

(2) 正蓮寺川公園は稀に見る空間

・状況

正蓮寺川公園は、完成すれば延長約2.5km、面積が甲子園球場の約5個分の大規模な公園となり、かつ、電線類がなく、周囲に高い建物も少ない素晴らしい開放感に満ちた公園であり（アーティストが口をそろえて「抜け感がすごいですね」と表現する）、都市部において稀に見る貴重な空間である。

・未来への期待

その長い延長や規模、さらに類い稀な開放感を活かした活用が期待される。

(3) アートの土壌あり

・状況

正蓮寺川公園の周辺においては、これまで官民間わず複数のアートプロジェクトが行われてきたこともあり、アーティストが多く住み、またなかに多くのアート作品があるというアートの土壌がある。

・未来への期待

これまでのアート事業は比較的短期間で終了してしまうことが多かったため、正蓮寺川公園及びその周辺を舞台としてサステナブルに発展し続ける息の長いプロジェクトを行うことが期待される。

(4) 区制100年

・状況

此花区は、正蓮寺川公園の整備が進むなか、2025年に区制100周年を迎える。

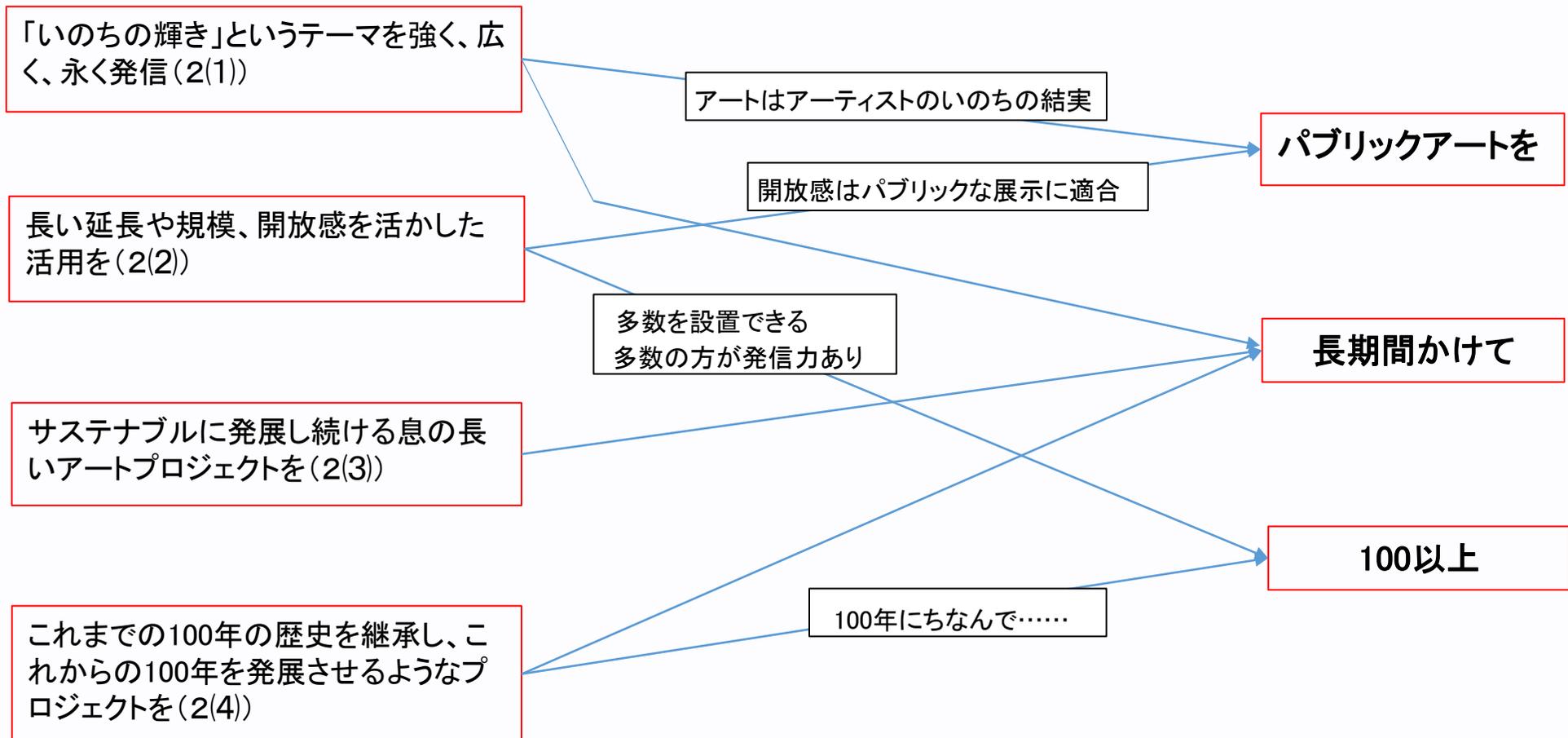
・未来への期待

正蓮寺川公園を舞台として、これまでの100年の歴史を継承し、これからの100年を発展させるようなプロジェクトを行うことが期待される。

3 めざす姿

(1) 「未来への期待」からの検討

「2」に示した「未来への期待」から下記の検討を行い、かつ、先行の成功事例も参考にしつつ、「パブリックアートを」「長期間かけて」「100以上」設置していくことを核とするアートプロジェクトが適当であるとの結論に達した。



(2) プロジェクト名・テーマ・コンセプト

(1)をさらに深く考察し、以下のとおりプロジェクト名、テーマ及びコンセプトを次のようにすることとした。

プロジェクト名

konohana permanentele 100+
コノハナ ペルマネンターレ ヒャクプラス

- ・permanentele (ペルマネンターレ) とは、イタリア語で「永久的な、常設の」という意味のpermanente (ペルマネンテ) と、イタリア語で「2年に1度の芸術祭」を指すbiennale (ビエンナーレ) や「3年に1度の芸術祭」を指すTriennale (トリエンナーレ) の末尾のale (アーレ) を合体させた造語で、数年に1度の芸術祭ではなく「永きにわたって持続していく芸術祭」「常設の芸術祭」であるとの意味合いを込めたものである。
- ・100+ (ヒャクプラス) とは、将来的に100個以上のパブリックアートの設置をめざす意志を示したものである。

テーマ

いのちの輝き脈々と、未来へ

此花区で開催される2025年大阪・関西万博に共鳴しこれを強く支持するとともに、区制100周年を記念するため、大阪・関西万博にゆかりの深いコトバである「いのちの輝き」「ミヤクミヤク」を用い、人々がこれまで「百年」を幾度も重ね脈々とつないできた歴史とところを、未来に向け脈々と継承し、発展させ、人々が命を輝かせ続けることへの願いを表している。

コンセプト

- ① 百年の歴史とところを、アートを通じて未来へ継承し、発展させる
- ② 人々が、100以上のアートを未来に向けて脈々と作り続け、更新し続けていくこと
それ自体によって、脈々と未来につながり続ける命の輝き (well being) を表現する
- ③ 子どもが笑顔を輝かせ喜ぶアートを通じて、多くの人々の笑顔を創り出し、その笑顔も
“コロニー型アート” (※)の一部とする
- ④ 長年にわたり増殖し、形を変えていく「konohana permanentale 100+」自体を
“コロニー型アート” としてとらえる

※ コロニー型アート

サンゴが個々のポリプが集まってコロニー（群体）をつくるように、個々のアートの集合体をひとつのアートとして捉えるための造語である。「konohana permanentale 100+」の全体が、いわばひとつのアートとして人々のところに響くようにとの願いを込めている

(3) めざす姿の具体像

めざす姿の具体像を次の4つの視点から設定し、実現に向けて取り組む。

- ・ **公園全体にわたって100以上のパブリックアート(※1~3)が展示され、更新されつづけている(※4)**

- ※1 鑑賞用の作品のみならず、子どもが体験できる作品やアートベンチなど公園利用者が活用できる作品なども設置。

- ※2 本プロジェクトのテーマに即し各作品の共通テーマを「いのちの輝き」とする。

- ※3 いのちが多様な存在であることをふまえ、多様なアーティストによる作品制作をめざす。

- ※4 関係先との協議を行い、必要な許可を得て進める。

- ・ **大阪・関西有数の「パワースポット」(※)として人々に広く認知され、多くの人々が集い賑わっている**

- ※ アートはアーティストたちのいのちの結実であり、「いのちの輝き」を表現する良きアートには人の心に直に触れ共鳴させ、人のいのちを輝かせるエネルギーがある。アートのそのようなエネルギーによって正蓮寺川公園を多くの人々のいのちを輝かせる力のある特別な場所としたいという願いを込め「パワースポット」の言葉を使うものである。

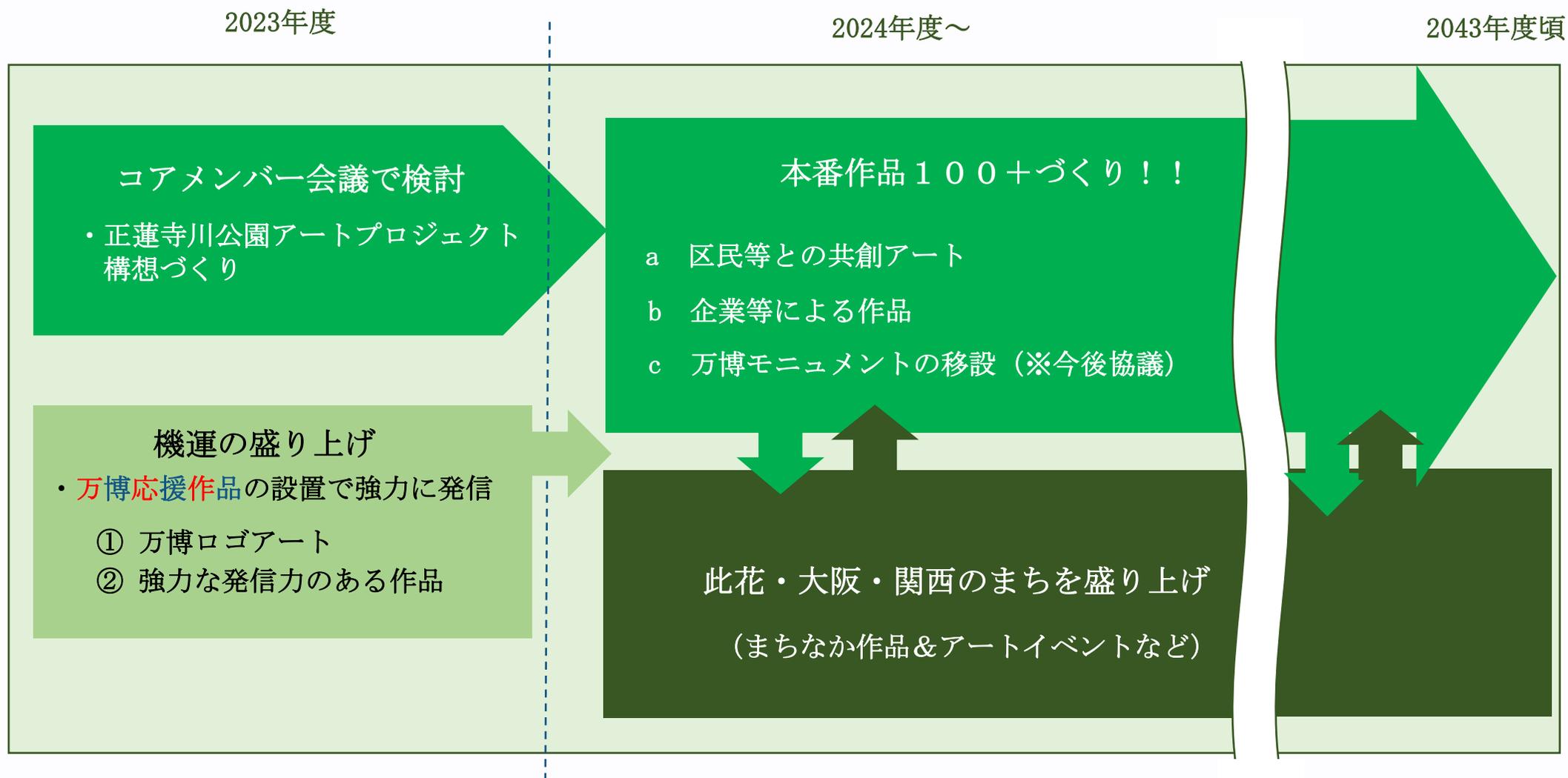
- ・ **まちの人々が誇りに思い、まちの人々主体の活動が活発に行われている**

- ・ **プロジェクトの良き効果(※1)が広範囲に(※2)及んでいる**

- ※1 賑わい、感動、子どもたちの笑顔、アーティストの成長、アートに親しむ心、多様性を大切にする意識 など。

- ※2 此花区さらに大阪・関西に。人々の暮らしの中に、心の中に。

4 めざす姿の具体像の実現に向けての流れ



5 めざす姿の具体像の実現に向けてのステップ

2024年度から2025年度（2025年大阪・関西万博の開催年度）までを「始動期」、2026年度から2033年度までを「発展期」、2034年度から2043年度までを「熟成期」と位置づけ、以下、それぞれに分け、具体像の実現に向けたステップのイメージを示す。

(1) 公園全体にわたって100以上のパブリックアートが展示され、更新されつづけている

始動期

・ 数作品のパブリックアートを設置

数作品を設置する。区はそのために必要な予算の確保や契約等を行う。また、区は、大阪・関西万博において屋外展示されたアート作品やモニュメントを閉幕後に移設する可能性を探り、調整・協議を行う。

・ 年に5点程度のパブリックアートを設置(熟成期も同じ)

区の財源での契約による設置のほか、「企業等からの寄付や協賛による設置」「2025年大阪・関西万博の屋外アートやモニュメントの移設」「アーティスト公募による設置」などさまざまな方法により、1年に5個程度のペースで設置していくことをめざす。なお、各作品の共通テーマを「いのちの輝き」とし、多様なアーティストによる作品制作をめざす。

・ 公園施設のアート作品化(熟成期も同じ)

正蓮寺川公園の整備に伴い、ベンチや街灯などの公園施設についてもパブリックアートの要素を持つものを設置していくことについて、公園管理者と協議し同意を得られるような検討を進めていく。

・ 企業等からの協賛・寄付の確保(熟成期も同じ)

企業等へのPRに努力し、協賛や寄付を最大限確保する。

・ パートナー企業の確保

単発的な協賛や寄付等だけではなく、継続的に協賛してくれる「パートナー企業」の確保にも最大限努力する。

・ 100作品設置に向けた取り組みの加速

始動期や発展期での取り組みを継続しながら、設置数を増やす新たな取り組みも導入する。例えば、この時期までに本プロジェクトのブランド力を確立し、企業やアーティスト側の負担による自主的な制作・設置の要望が数多く集まることなどをめざす。

発展期

熟成期

(2) 大阪・関西有数の「パワースポット」として人々に広く認知され、多くの人々が集い賑わっている

- ・ 公式ロゴマーク作成(発展期・熟成期も使用)

公募によって公式ロゴマークを作成することで、認知度を上げる。

- ・ QRコード付き説明板の設置(発展期・熟成期も継続)

作家プロフィールや作品に込めた思いなどを説明する。

- ・ 魅力的なパンフレットやデジタル画像・動画などを用いてのPR活動(発展期・熟成期も継続)

企業等からの協賛・寄付の確保に向け、PRを積極的に行う。また、近隣ホテル等にパンフレットを設置し、観光客等へのPRも積極的に行う。

- ・ 「広報このはな」や区のホームページ・SNSを通じた発信(発展期・熟成期も継続)

- ・ 公式ホームページ・公式SNSによる発信(発展期・熟成期も継続)

- ・ 作品完成時のデビューセレモニーを開催(発展期・熟成期も継続)

- ・ 近隣ホテルにシェアサイクルなどのポートを誘致(発展期・熟成期も継続)

- ・ 作品と公園の愛護活動(発展期・熟成期も継続)

- ・ フォトコンテストや子どもの写生大会などを実施または誘致(発展期・熟成期も継続)

- ・ 正蓮寺川公園外のパブリックアートと連携し「まちなか美術館(仮称)」を開催(発展期・熟成期も継続)

・ 定期的な芸術祭の開催(熟成期も継続)

区と市民組織とが協働し、広くまちの人々が参画し、定期的に芸術祭を行い、区内外の人々が集うことで、まちの賑わいにつなげる。集った人々が発信し、そこから、新たな共感と感心、愛着が生まれ、新たなイベントの担い手や支援者が増え、持続的に発展しながら開催し続けていくことをめざす。

・ 小中学生の遠足や社会見学の誘致(熟成期も継続)

小学生や中学生が遠足や社会見学などで訪れるように誘致を行い、遠足や社会見学の定番の場所となることをめざす。

・ 施設などの充実

より多くの人々が正蓮寺川公園に集えるよう、近隣等の駐車場の整備やカフェ、バーベキュー場などの誘致、グッズやお土産品等の開発などに取り組む。

・ アートツアーやワークショップの実施、アートセンターの設置

パブリックアートの増加に伴い、ガイドの説明を聴きながら鑑賞して回るような「アートツアー」や、気軽にアートについて触れることができる「ワークショップ」を開催する。また、情報発信やワークショップの拠点となるような「アートセンター」の設置をめざす。

・ 100作設置記念イベント

100作のパブリックアート作品の設置を進めるにあたって、発展期に作り上げた定期的な芸術祭を継続して開催し続けるとともに、100作目を設置する際には、大々的なアートイベントを実施する。

(3) まちの人々が誇りと愛着を持ち、まちの人々の活動が活発に行われている

始
動
期

- ・ 市民との協働による推進(発展期・熟成期も継続)

準備期間であった令和4年度及び令和5年度は区主体で取り組んできたが、本格実施となる令和6年度以降は、本プロジェクトに共感する市民との協力体制を構築することで、行政と市民が一体となったプロジェクト推進体制を確立する。

- ・ 地域理解の推進・地域との連携(発展期・熟成期も継続)

アートプロジェクトは地域の理解と共感なくしては成り立ちえないものであり、地域への説明と意見交換に注力する。また、本プロジェクトの舞台である正蓮寺川公園の愛護活動について、公園管理者の理解と協力を得ながら、地域と連携していく。

- ・ アーティストやアート関係者との連携(発展期・熟成期も継続)

此花区には多くのアーティストやアート関係者が住んでいることから、彼らとつながり、理解と共感を得て、連携・協働することをめざす。その動きを、大阪・関西、さらに全国・海外のアーティストに拡げていく。

- ・ 子どもの参加の促進(発展期・熟成期も継続)

イベントやアート制作に多くの子どもが参加し感動体験をすることによって、一生涯にわたる愛着と共感を醸成し、成人してから主体的に本プロジェクトに参画する大人になり、さらにその子どもに継がれていく循環づくりをめざす。

発
展
期

- ・ 此花区から大阪市・大阪府へ、関西へと拡げていく(熟成期も継続)

誇りと愛着を持ち、活動に参加する人の範囲が広がるほど、まちの人々の誇りと愛着が強まり、誇りと愛着が強まるほど、活動に参加する人の範囲が更に広がっていく。その相乗効果をめざす。

熟
成
期

- ・ 本プロジェクトを扱う映画、ドラマ、小説、アニメ、コミックなどの制作を促進する

作家、映画・ドラマ制作会社、出版社等にアプローチし、本プロジェクトを舞台とし、または題材とする作品の制作を働きかける。

(4) プロジェクトの良き効果が広範囲に及んでいる。

(1)～(3)に記載のすべての取り組みを通じて、以下の実現を図る。

始
動
期

発
展
期

熟
成
期

- ・ 賑わいが広範囲に及んでいる

特に(2)の「正蓮寺川公園外のパブリックアートと連携し『まちなか美術館（仮称）』を開催」及び「定期的な芸術祭の開催」を通じて。

- ・ 感動が広範囲に及んでいる

特に(2)の「正蓮寺川公園外のパブリックアートと連携し『まちなか美術館（仮称）』を開催」、「定期的な芸術祭の開催」、(3)の「本プロジェクトを扱う映画、ドラマ、小説、アニメ、コミックなどの制作を推進する」を通じて。

- ・ 子どもたちの笑顔が広範囲に及んでいる

特に(2)の「子どもの写生大会などを実施または誘致」、「小中学生の遠足や社会見学の誘致」、(3)の「子どもの参加の促進」を通じて。

- ・ アーティストの成長が広範囲に及んでいる

特に(2)の「定期的な芸術祭の開催」、(3)の「アーティストやアート関係者との連携」を通じて。

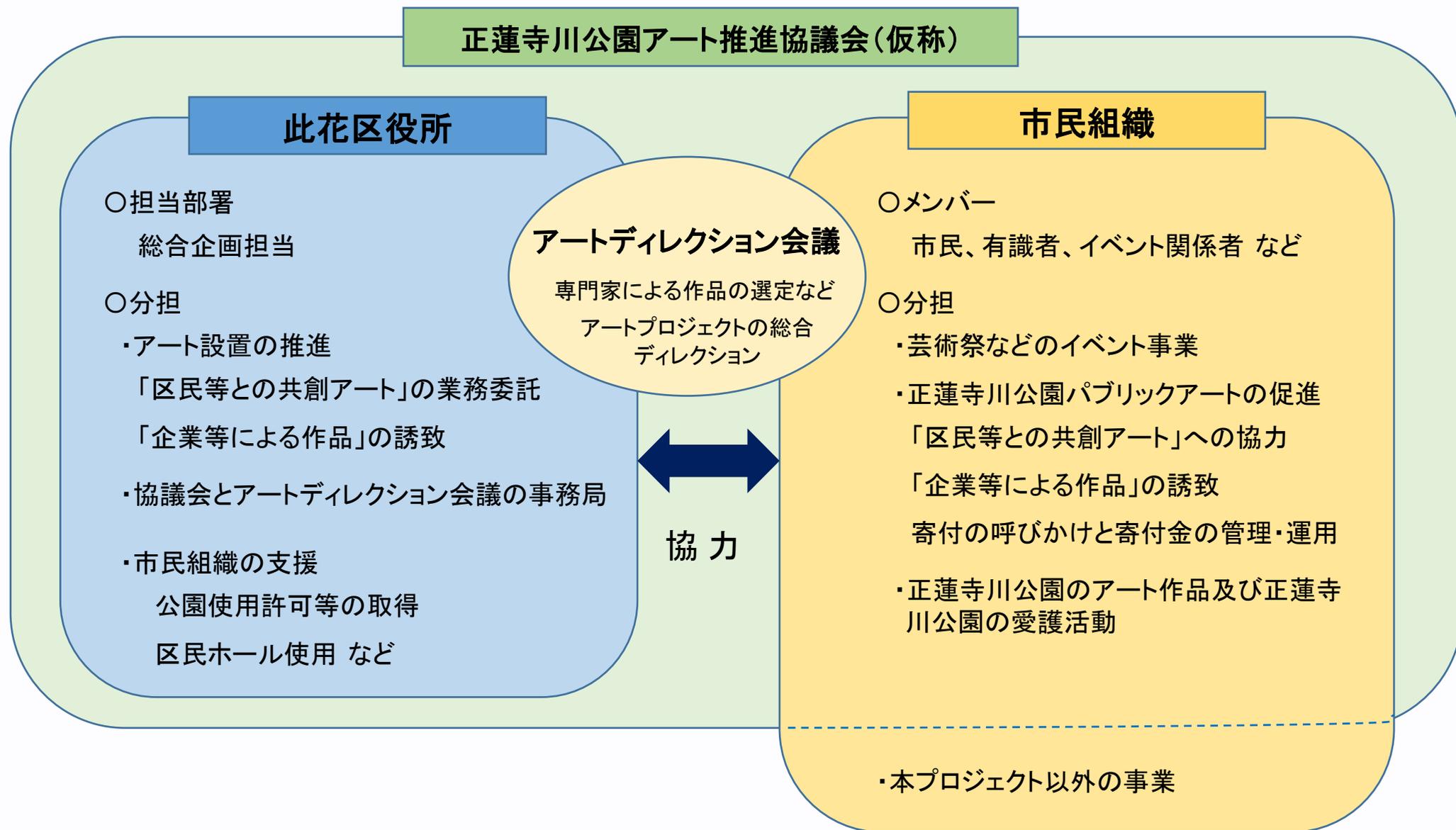
- ・ アートに親しむ心が広範囲に及んでいる

特に(2)の「QRコード付き説明板の設置」、「作品と公園の愛護活動」、「フォトコンテストや子どもの写生大会などを実施または誘致」、「正蓮寺川公園外のパブリックアートと連携し『まちなか美術館（仮称）』を開催」、「定期的な芸術祭の開催」、「小中学生の遠足や社会見学の誘致」、「アートツアーやワークショップの実施、アートセンターの設置」、(3)の「地域理解の推進・地域との連携」、「子どもの参加の促進」、「本プロジェクトを扱う映画、ドラマ、小説、アニメ、コミックなどの制作を促進する」を通じて。

- ・ 多様性を大切にする意識が広範囲に及んでいる

特に(1)の「各作品の共通テーマを『いのちの輝き』とし、多様なアーティストによる作品制作」を通じて。

6 市民との協働による推進体制のイメージ



市民組織のメンバーは市民組織が主体的に決定する。また、分担については、市民組織の主体性を前提に、此花区役所と市民組織の協議により決定する。

7 財源のあらまし

(1) 区役所の財源

- ① 「大阪ひかりの森」プロジェクトからの寄付金（2033年度まで）
- ② 区政推進基金（寄付金）
- ③ 区長自由経費（区まちづくり推進費）

(2) 市民組織の財源（イメージ）

- a 企業や個人などからの寄付収入
- b クラウドファンディングによる収入
- c 事業収益
- d 会費等

			此花区役所	市民組織	
設置	区民等との共創アート	～2033年度	①で区が設置。②確保に努力	区設置作品について区民等の参画に協力 (a,bにより市民組織による設置も可。この場合、区は管理者協議、許可類の取得等で市民組織に協力)	
		2034年度～	②で区が設置		
	企業等によるアート	寄付金	区に	②で寄付を受け区が設置	区に協力
			市民組織に	管理者協議、許可類の取得等で市民組織に協力	aで市民組織が設置
		作品の寄付・設置	管理者協議、許可類の取得等で企業に協力	企業等の要請に応じ、制作面、イベント等で協力	
	万博アート・モニュメント		両者協力して関係先と協議してもらい受け、寄付(②,a,b等)を集める等して移設。管理者協議、許可類の取得は区で実施		
	防犯カメラ等		①で区が設置。②確保に努力	区に協力	
維持管理	作品	区保有	～2033年度	清掃等で区に協力。a,b確保に努力	
		2034年度～	②で実施。③で補完		
	区以外が保有	保有者の維持管理に協力（実施は保有者）			
管理	周辺除草・清掃		公園管理者の管理水準を超える部分について両者協力して実施（内容・分担は協議）。公園愛護会設置後は愛護会とも協力		
	防犯カメラ等		2033年度までは①,②で、2034年度以降は②で実施 いずれも、場合によっては③で補完	区に協力	
広報・イベント			両者協働して実施（区…②,③で実施。許認可関係は区を中心に。市民組織…a～dで実施）		

区は重点施策推進経費その他の財源の確保にも努める。また、市民組織に係る部分はイメージであり、市民組織の主体性のもと区と協議する。設置に関しては、区が主となって管理者協議を実施し、市民組織や企業等との調整・指示は区が行う。

8 コアメンバー有志によるあとがき

「いのち輝くアート (Art for Our Lives)」の提唱
正蓮寺川公園におけるアートプロジェクトへの期待

大阪市特別顧問
大阪市都市計画審議会会長、大阪府市文化振興会議会長
大阪公立大学研究推進機構特別教授
konohana permanentale 100+コアメンバー
橋爪 紳也

1 持続可能な社会と正蓮寺川公園

此花区とは、子供の頃から縁がある。父親が経営する建築塗装会社が、春日出の安治川沿いに会社を構えていた時期がある。中学生の頃、私も自宅のある島ノ内から自転車ですばしば往復した。社屋の屋上から眺めた川沿いの倉庫街や工場街の景観と空気感が、わたしの原風景のひとつである。「産業の大都」と呼ばれた大阪の繁栄を担ったのがこの一帯であると思うと、大阪人として誇らしげに思ったことを鮮烈に記憶している。

今回、正蓮寺川公園のアートプロジェクトの構想立案に参画させていただくことになった。正蓮寺川は明治18年の大洪水を受けたあとに進められた淀川改良工事によって、六軒家川とともに中津川の本流から切り離された。

いっぽうで大阪の産業都市としての発展に応じて、川沿いの一帯に大阪鉄工所、汽車製造株式会社、住友伸銅所、住友電線製造所、住友製鋼所などの工場が集積した。「大大阪」の中核となる工業地帯となり、多くの船が川筋を往来した。

淡水と海水が汽水域にあたる正蓮寺川では、子供達が泳ぎ、また河豚やサヨリ、フナ、コイなどを釣ることができた。しかし戦後復興から高度成長期にかけて、家庭や工場の排水で正蓮寺川の汚染が進む。地元では、河川の汚濁、航運の安全確保、幹線道路の必要性などから、正蓮寺川および六軒家川に対する埋め立てに向けた要望を検討する。跡地利用については、道路や住宅地としての活用、一部を埋め立てて川幅を狭めた河岸公園とする案などが検討されたという。

高速道路淀川左岸線1期が都市計画決定されたのは、昭和61年（1986）のことだ。当初は「掘割構造」とし、高速道路の両側を公園とする案であったが、住民の要望もあって覆蓋方式に変更、上部を市営の都市緑地公園とすることになった。排水で澱んだ河川を緑のある公園に改める事業は、いったん失った自然を回復する重要な試みであり、持続可能な社会の象徴となるものだ。

時間をかけて、この公園にアート作品を置くことで、環境改善を促進した公園の存在意義を、内外に広く訴求することが可能であると考えている。

2 「いのち輝く未来社会」と正蓮寺川公園

正蓮寺川の名前の由来となった正蓮寺は、大阪市の指定文化財となった「川施餓鬼（かわせがき）」で有名である。施餓鬼とは、飢えと渇きに苦しむ餓鬼に飲食を施して供養することで、自身の長寿を願う仏事である。正蓮寺の川施餓鬼は、船上や川辺で法要を行ない、死者の法名を記した経木や供物などを流す。正蓮寺が所在する正蓮寺川は、まさに人々の「いのち」を弔う川筋であり、ある意味で聖地である。

近年、私たちは「いのち」の大切さに改めて向き合う機会が多くなった。新型コロナウイルスによるパンデミックによって、世界中の誰もが、自身だけではなく、家族や他人の「いのち」を護ることの重要性に気がついた。またウクライナやパレスチナなど紛争や戦争も絶えることがなく、日々、多くの人が戦場で生命を落としている状況に、心を痛めざるを得ない。

2025年、大阪・関西万博のテーマが「いのち輝く未来社会のデザイン（Designing Future Society for Our Lives）」となったのは歴史の必然だろう。健康で長寿を確約された先進諸国に対して、世界では誰ひとり取り残すことなく、充足した人生を送る社会を理想として掲げることが望まれる。

正蓮寺川公園のアートプロジェクトでは「いのち輝く」を主題としたアートを順に配置することを想定している。私は国際博覧会の主題に即して、ひとりひとりの「いのち」を尊重する社会を想起しつつ、「いのち輝くアート（Art for Our Lives）」というコンセプトを示したい。私は、正蓮寺川公園を、ひとりひとりの「いのち」の大切さに向けたアーティストの思いが託された「いのち輝くアート（Art for Our Lives）」が並ぶ、世界で例のない魅力あるアート公園に育ててゆきたいと考えている。

此花区のまちの賑わいを願って

此花区地域振興会会長
正蓮寺川・六軒家川環境整備推進協議会会長
konohana permanentale 100+コアメンバー
岩井 政人

此花区に多くの人を訪れ、まちが賑わうことをかねてより願っている。一つの大きな契機となったのは、23年前にユニバーサル・スタジオ・ジャパンが此花区に誕生したことだ。ユニバーサル・スタジオ・ジャパンへの数多くの来訪客が此花区内を巡り、此花区のまちが大いに賑わうものと多くの区民が期待した。しかし、残念ながら現状はそのようになっていない。

どうすれば此花区に賑わいが生まれるのか、どうすれば人を呼び込めるのかをずっと考えていたところ、今回、正蓮寺川公園のアートプロジェクト構想の検討メンバーに参加することとなった。

正蓮寺川公園は、東西に長い此花区の中央部を背骨のようにつらぬく公園で、すべて完成すれば甲子園球場約5個分の広大な面積となることから、まさにこれからの此花区の中心となる公園である。

ただし、単なる公園では人は集まらない。正蓮寺川公園には桜が多く植わっており、今後も増えていくが、桜は春の1週間限定のもの。将来的には屋外劇場などの声も挙がっているが、騒音などの問題もあり、今の時代に適した、かつ1年を通して賑わいを生むような良い取り組みがあれば、と感じていた。

今回の正蓮寺川公園アートプロジェクトは、公園にパブリックアートを設置し続けていくことで、此花区の内陸部にも人を呼び込み、賑わいを作り、此花区の人口を増やすために良いプロジェクトであると考えている。正蓮寺川・六軒家川環境整備推進協議会や此花区区政会議などでも概ね好評であり、またアート事業で賑わいづくりを成功させたケースが他所でいくつもあると聞いている。強く期待をしている。

令和5年度に、正蓮寺川公園にパブリックアートが2作品できる。万博ロゴマークのアートと、龍のアートである。言うまでもなく2025年には大阪・関西万博が此花区にやってくることから、万博ロゴマークのアートは、万博のご当地である此花区にふさわしく、未来に向けて、非常に意義のあるものだ。

また、此花区は水に縁のあるまち、水害が心配なまちなので、水の神様である龍は題材として素晴らしい。しかも設置予定である2024年は辰年で、縁起も良く、区民の一人としても大変喜ばしい。

さて今後、正蓮寺川公園アートプロジェクトをより良いものにしていくためには、何が必要だろう。

第一に、地域住民が積極的にこのプロジェクトに参加することだ。この構想では「区民等との共創アート」を掲げているが、例えばそのような共創アートであるとか、他にもアートイベントや正蓮寺川公園の清掃、草引きなどが挙げられる。

また、これからを担う子どもたちにも是非参加をしてほしい。例えば「区民等との共創アート」に子どもたちが参加することで、その子どもが大人になり、次は自分が子どもたちとアートを作る、そんな「循環」ができ未来へとつながっていけば、最高である。

そして、このプロジェクトを長く続けていくということも、決して忘れてはならない。長年かけ、このプロジェクトが、此花区民が自分たちのまちにより愛着や誇りを持つきっかけになれば、と強く願っている。行政においても、此花区長や区職員が変わろうともこのプロジェクトをしつかりと続けていただきたい。

此花区沿岸部と内陸部を結ぶ交通手段も必要である。シェアサイクルやオンデマンドバスなどである。此花区は交通の便が悪い地域があるため、電車やバスの代替となる新たな交通手段により、沿岸部の賑わいを内陸部へ、そして内陸部から此花区全体の賑わいにつなげていくことが必要だ。

正蓮寺川公園アートプロジェクトがまちに賑わいを生み、人を呼び込み、そしてまちが活気づく、そのための大きな一歩となることを願って。

konohana permanentele 100+コアメンバー会議（高橋以外は50音順）

メンバー氏名	肩書等	メンバー氏名	肩書等
岩井政人	此花区地域振興会会長	橋爪紳也	大阪公立大学研究推進機構特別教授
鴻池一季	前株式会社鴻池組名誉会長	高橋英樹	此花区長
後藤哲也	近畿大学文芸学部准教授		

konohana permanentele 100+コアメンバー会議 事務局

氏名	肩書等	メンバー氏名	肩書等
西川勇二	此花区役所総合企画担当課長	宮本剛志	此花区役所まちづくり推進課担当係長
小山謙治	此花区役所まちづくり推進課 総合企画担当課長代理	森山 健	此花区役所まちづくり推進課 総合企画担当